

## 第1回委員会の質問に対する事務局方針

No.	質問	回答
1	これまでの調査研究の成果を踏まえて自然や歴史文化等を改めて見直すとあるが、委員構成をみると自然分野の委員がない。自然はあまり扱わない形になるか。	(1) 自然とあるが、「自然科学」ということでなく「環境」といった前提で考えている。 (2) たとえば「松枯れ病」といった全市或いは周辺自治体にも及ぶ自治体で対応している事柄なども対象としたい。 (3) 旧来の松本市史自然編、また、合併町村で刊行した自治体誌の該当部分は再録しない。 (4) 委員構成を考慮して、環境分野で委員を加えることも検討している。
2	自然分野を重視するならば、心配である。寄稿という説明もあったが、今後は編集委員会とは別に原稿執筆していただく、あるいは調査に協力していただく方が参加する可能性はあるか。	(1) 自然分野に対する考え方、委員追加については上記1のとおりである。 (2) 委員を追加しない場合は、寄稿を依頼する方法、調査に協力していただいたうえで編集委員が執筆をおこなうことが考えられる。 (3) コラムは、個別に寄稿していただくことを考えている。→ 6の(1)、(2)
3	35地区の概要がかなりの部分を占めるが、執筆にあたり公民館、地域の方の協力、お話を聞く機会が必要になる。何か協力を得られるような体制があれば安心できる。	(1) 編さんに関わる協力要請は、庁内等に周知するとともに、関係個所に依頼文などを出す。 (2) 個別に編集委員が調査を行う、協力を得ることが想定されるので、支障なく調査などを行なえるように事務局で対応方法を考える。
4	平成令和版は令和8年のどこまでを取り上げていくのか。または、120周年にあたる令和9年にも記述が及ぶのか。	(1) 本書は市制120周年記念事業で刊行する。 (2) このような場合、①として記念品として刊行する、②記念事業を収載して刊行するの二通りが考えられる。 (3) 本書は、基本的に上記②にそい令和9年5月1日の市制施行日頃までを扱う範囲としたい。
5	紙ではなく、デジタルデータを参照しながら使うことも考えられるが、CD版のようなものを作る予定はあるか。	(1) 編集工程が出版社等ではデジタル化されているので、紙刷りのものと同時にデジタル版のデータが同時に出来る。 (2) デジタルの扱いについては他誌の状況を見ながらもう少し研究させていただきたい。
6	今回の市史は、配付資料にコラムなどがあるが、20ページ分では少なすぎないか。もう少し、各視点でエピソードなどを紹介した方が見やすくなるし、市民の手に取りやすいと思うので、検討してほしい。	(1) 本書については、読みやすさ重視で編さんしていくので、コラムといったアクセントは本文と同じく大切にしたい。 (2) 例えば120周年にちなみ市民、市出身者、関係者など120人の方々から寄稿をいただくことなども考えられる。
7	市史を販売するとのことなので、デジタルデータを作成した場合は販売することになるのか。	(1) 基本的に紙刷りでの販売を前提としたい。 (2) デジタルデータは編集過程で紙刷りと共に作成されるので、他都市の状況を踏まえながら販売の可能性も検討したい。
8	編さんにあたり収集した資料、情報のその後の取り扱いはどうなるのか。今後進めていくにあたり、例えば撮影した写真、インタビューした記録とかを保存することを考えているか。	(1) 文書館での保存また、その後の利活用を前提に収集していきたい。 (2) 旧来の様な紙のみでない媒体を収集することも考えられる。外付けHDDに入れたままで使えなくなったり、誤削除してしまうことも考えられるので、将来活用できるような活用方法を考えたい。
9	碎けすぎてもいいくらい市民が手に取って開いて、読み進めるようなものになると良いが。	(1) 平成から令和のあいだで老舗の飲食店が消えてしまうなどの報道されたように、たとえば松本駅アナウンス切り替わり、市街地の老舗映画館の一斉閉館、大規模小売店舗の閉店など、市民生活に密着した、市民目線の項目、といったことなども記述したい。 (2) 固い本には載りづらいけれども市民の側からすると日常からなくなって驚かれたことなどの記述が必要と考える。